

総務文教常任委員会 行政視察等報告

焼津市議会議長 鈴木浩己 様

総務文教常任委員会

委員長 村松 幸昌

副委員長 青島 悦世

委員 安竹 克好

河合 一也

石田 江利子

杉田 源太郎

鈴木 浩己

(報告者:石田)

令和元年5月16日～17日にかけて、東京都江東区、新宿区に行政視察を行いましたので、その概要を報告いたします。

〔期間〕

令和元年5月16日(木)～17日(金)

〔参加者〕

村松幸昌 委員長 青島悦世 副委員長 安竹克好 委員 河合一也委員
石田江利子 委員 杉田源太郎 委員 鈴木浩己 委員

〔視察場所と項目〕

1. 東京都江東区：東京都立第五福竜丸展示館
2. 東京都新宿区：東京おもちゃ美術館

1. 「東京都立第五福竜丸展示館」

①館長による説明

第五福竜丸は、昭和22年3月に造船され、今年で72年となるが、被爆の2年後に水産大学の演習船に改造され使用された。このため、漁船としての完全な姿は残していない。

第五福竜丸は、元々は、カツオ漁のための船として、和歌山県の造船所で建造された。当時は第七事代丸と命名されていた。その後マグロ船に改造され、昭和28年の春から焼津の船として活動した。



被爆したのは、昭和29年3月1日であるため、焼津のマグロ漁船として現役で活躍した期間は10か月であった。水産大学の演習船としては、船名がはやぶさ丸となり、約9年間使用され、廃船となり、業者に払い下げられたが、業者は、価値のあるエンジンのみを転売し、本体は夢の島に放置されていた。その後、保存運動が起こり、展示館が建設された。

第五福竜丸が造船された当時は戦後の食糧難の時期であり、当時は動物性たんぱく質は、魚に頼るしかなかった。当時は造船はすべて許可が必要であったが、食糧難を考慮し、木造の100トン前後の漁船は許可が不要となった。このため、同型の船が、全国で多数建造された。また、当時は漁業制限海域が設定され、遠洋漁業が制限されていた。このため、遠洋のマグロではなく近海のカツオ船として、当初は造船された。その後昭和27年に遠洋マグロ漁が解禁されたため、マグロ船に改造し、焼津の船主に転売され、第五福竜丸となった。

食糧難の時代に造船された漁船で残存しているのは、第五福竜丸のみであり、木造船としての史料価値もある。このため、平和遺産とともに、木造船としての産業遺産と位置付けている。

戦後、米ソにおいて、昭和27年から水爆の開発競争が始まったが、これは、日本が遠洋マグロ漁が可能となって年と同じであり、昭和29年3月1日のビキニ環礁における水爆実験に遭遇し被爆した。その爆発の威力は、広島に投下された原爆の1,000倍であり、第2次世界大戦で使用された全ての爆薬の5倍である。ソ連はその後、この水爆の3.5倍の威力の実験をシベリアで行ったが、現在においても立ち入り禁止となっている。大規模な核実験を行うと、高層に放射性物質が引きあがり、ジェット気流により、1年から1年半で様々な場所に落ちてくる。このため子供に対する影響を懸念し、欧米の女性が主となり、実験の反対運動が広がった。このようなことから、核を保有し核実験を繰り返した国も、放射能の影響を受けていると言える。また、初期の核兵器開発では、従事した兵士も被爆した。また、核実験の影響を考慮し米国は、昭和28年に、世界の122の地点に放射能の測定装置を設置した。日本においても、青

森島の三沢、東京の横田、広島、長崎、硫黄島、沖縄の嘉手納に設置されたことが今では分かっている。

核実験については、昭和38年に部分的核実験禁止条約ができ、米国、ソ連、英国が、大気圏（地上）で実施せず、地下で実施し、放射能の汚染を防ぐことに効果が認められるが、中国とフランスは加入していなく、多くの問題がある。

ビキニ環礁の水爆実験では、爆発によりサンゴ礁が舞い上がり、砂状にくだけ、死の灰となった。爆発のきのこ雲は高さ34,000メートル、直径200キロメートル、東京から焼津くらいのきのこ雲である。当然この範囲に死の灰は降り注いだ。第五福竜丸は爆発地点から160キロメートル離れたところで操業していた。160キロも離れているため、爆発の際、水平線が光ったが、爆風や熱線は第五福竜丸には届かなかった。乗組員は延縄の作業中であり、白い粉のような死の灰が降ってきた。白い粉が何かわからないが、マグロを揚げることに優先されるので、作業を継続し、計4～5時間作業をした。白い粉は、髪の毛、露出している皮膚に付着し、作業着の中にも入ってきた。延縄の作業が終了した後は、体を洗い流したため、継続して大きく外部被爆することはなかったが、船全体が放射性物質で汚染されていた、また食料・飲料水も汚染されていた。漁場から2週間で焼津に帰港するため、体の中に放射性物質を取り込み内部被爆してしまった。

第五福竜丸の23人の乗組員が被爆したが、被爆から3～4日後に歯ぐきからの出血、ベータ線火傷の症状がではじめる。そして、10日後から脱毛がはじまった。これは、放射線の急性症状であるが、急性症状は2,000ミリシーベルト～3,000ミリシーベルト浴びないと発症しない。これは、広島、長崎で爆心地から1キロメートル以内で被爆した人と同じレベルであった。3月14日に焼津に帰港したが、船主が、乗組員の状況を見て、理由を聞いたところ、よくわからないが、光を見て、白い粉が降ってきたと、とにかく焼津協立病院で診察したところ、医師が核実験に遭遇したのではないかと判断し、翌日の3月15日に重症の2名を東大病院へ送った。また、船に残留していた白い粉も東大病院へ持って行った。2名の患者は即刻入院となり、白い粉は分析し、被爆が明らかになった。2名が東京で診察している間に、第五福竜丸が取ってきた魚は、セリにかけて、すべて売ってしまった。3月16日に読売新聞に、第五福竜丸の被爆が記事になった。東京の築地市場に焼津から来た魚を測定したところ強い反応があり、全て処分となった。大阪、名古屋にも送られたが、大阪に送られた魚の一部が小売りされてしまった。その後、日本政府は主要な港の船は検査するよう指示を出した。静岡県では、焼津と清水が指定された。検査はその年の年末まで行われた。その他の第五福竜丸の乗組員も、焼津では診療ができないため、東大病院、国立第一病院で診療にあたった。適切な治療方法はなく、安静にし、被爆により造血機能が喪失するため輸血するしかなかった。当時のマグロ延縄漁は体力が必要で乗組員の平均年齢は25歳であった。久保山愛吉さんは最年長で、被爆時39歳であった。久保山さんは無線技師であった。若い乗組員は、徐々に回復していったが、久保山さんは、回復しなかった。そして9月23日に亡くなってしまった。40歳であった。久保山さんが亡くなる際に、原水爆の被害者は私を最後にして欲しい。という言葉を残した。久保山さんと娘

さんとの手紙は、焼津の歴史民俗資料館に展示されている。今年の2月25日に乗組員であった見崎さんが92歳で亡くなり、4名が存命している。

核実験では、多くの船籍が被害を受けた、軽度の被爆や、被爆はなくとも、マグロの処分が漁業に金銭的な影響もあった。1,000隻の船に影響があったと言われている。年が明けて、日米で協議し、米国が7億2千万円のお見舞金を日本政府へ支払うこととなった。このうち5億8千万円が水産業界に支払われた。そして第五福竜丸の乗組員のみ個人的に平均200万円のお見舞金が支払われた。当時、多くの漁船が被害を受けた。入院中は、全国から励ましの手紙等が届いたが、退院後は妬まれてしまった。このため、若い乗組員の多くは焼津から自分を知っている者がいない都市部に居を移した。

今年で、被爆から65年となる。存命している方も高齢であるが、当展示館としては、事件を風化させず、伝えていきたい。

②質疑応答

Q 学校の見学の状況はどうか。

A 年間で400校程度の見学がある。多い時は780校であった。少子化の影響で減少している。広島・長崎は有名であるが、教師も第五福竜丸の知識が少ないのではないかと考える。

Q 焼津の小学校は来ているのか。

A 年間5校程度来ている。東益津は熱心である。

Q 外国人の来館の状況は。

A 本日もオーストラリアから来館している。

毎日、数名の外国人が来館している。

東京のガイドブックに掲載されている。英語のパンフレットも作成した。

今後は、ドイツ語、フランス語、ロシア語も作成したい。

Q アメリカの政府の関係者は来館するか。

A 政府関係者は来ないが、学校関係者は来ている。

最近、アメリカで、福竜丸の映画が作成された、「西から昇った太陽」というタイトルである。

③所感

東京都立第五福竜丸展示館は、昭和51年に開館し、第五福竜丸の船体をはじめ原水爆による惨事が、二度と引き起こされることを願いとして、これまで役割を果たして来た。近年は、老朽化による漏水などが目立ち、昨年7月から改修工事に着手。第五福竜丸が米国の水爆実験により被ばくしてから65周年の佳節を迎えた本年4月にリニューアルオープンした。来館者は、年間10万人前後で、小中高生など修学旅行で約400校が来館しているが、ピーク時には約780校であったことから、近年では減少している。一方、外国人の来館者は増加しているとのこと。

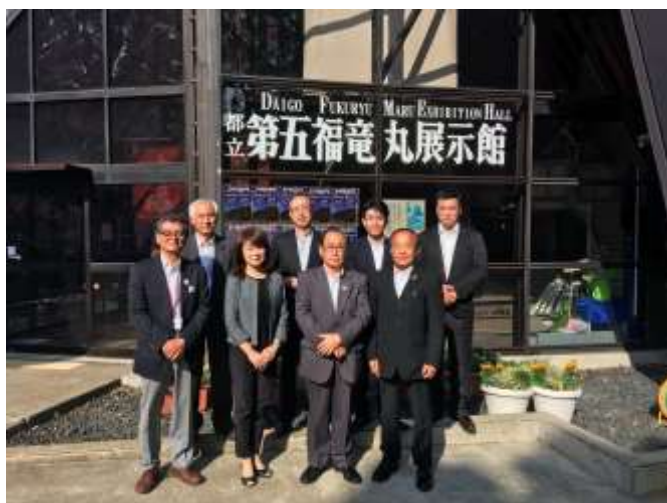
焼津には、第五福竜丸事件以外にも、漁船の徴用で焼津港の遠洋漁船のほとんどが

消滅し、悲惨な戦災を体験している。焼津港の徴用船はわかっているだけでも 113 隻。うち、1940年以後の徴用船で無事帰還できたのは 10隻あまりであり、乗組員 401 人の戦死が確認されている。この事実も風化させてはならないことである。また心臓部であるエンジン部分は、展示館の脇に屋外展示されているため老朽化が激しく、今後の保存方法も課題である。船体は、永久保存としているのであるなら、是非ともエンジンも同様に保存すべきと思った。

④今後の参考となる事項

焼津市では東益津小学校の児童が事前の学習をおこなった上で実際に見学に来ているという。焼津市においては苦しい試練が与えられた時代の歴史ではあるが、それだけに風化させることなく、焼津市がその歴史を語り継いでいくように、全小学校で学ぶ機会を持つようにしてはどうかと考える。こうした苦しい試練を乗り越えて今の焼津市があることをしっかり発信していくべきだと感じた。

また、「事件を風化さないこと以前に、正しく教え伝えることが大切です」との安田氏のお話しが心に残った。本市においても、歴史民俗資料館に第五福竜丸コーナーが設置をされてはいるが、次世代の子ども達に正しく教え伝えるためにも、手狭になっている同展示スペースなどを再考する必要があると考える。



2. 「東京おもちゃ美術館」

①建設の経緯

おもちゃ美術館は、中野にあったが、2007年春に閉校した旧四谷第四小学校校舎を運営していた地域住民に誘致され、2008年4月20日、「東京おもちゃ美術館」として全面移転した。

②木育

おもちゃ美術館の前提となるものは「木育」である。昭和20年当時は、戦争資材に樹木は使用され、木材が枯渇していた。それを改善するために、植樹・育樹の活動がされてきた。現在は、史上空前の切時である。切れられていない樹木が多くなってきた。国内も樹木を切っていないため、多くの住宅は海外の材木で建築している状況である。植樹、育種の時代から現在は活樹と言われている。この活樹のため、木育サミットを毎年開催している。木育サミットとは、木に親しみ、木を活かし木とともに生きていく「木育」の活動を普及させるサミットである。その他、木育円卓会議、木育キャラバンを開催している。木育キャラバンは、先日、焼津の和田公民館でも開催した。

③おもちゃ学芸員

おもちゃ美術館の運営に要となるのが、「おもちゃ学芸員」である。おもちゃ学芸員とは、簡単に言うとボランティアである。給与を支払うことができるNPO職員は40人いるが、おもちゃ美術館の担当は12人である。このスタッフのみでの運営となると、サービスが不足するため、ボランティアを募集することとした。しかし、ボランティアを漫然と募集しても集まらない。このため、おもちゃ学芸員という名称を使用し、講座を開催し、この講座を受講した人が、おもちゃ美術館で活躍できるとした。結果、360人が登録された。現在1日約15人が入っている。15人×300日で延べ約5,000人が活躍している。おもちゃ学芸員は、19歳から80歳まで登録があり、8割が女性である。地元以外の人もおもちゃ学芸員となっており、静岡や福井から来る人もいる。就業中は赤いエプロンを着用する。



④多世代交流

様々な年代のおもちゃ学芸員が活躍しているおもちゃ美術館は、多世代交流も、大きな柱である。おもちゃ美術館は、赤ちゃんも楽しいが、お年寄りも手ごたえを感じる施設を目指している。学生のインターンが年間60人程度来るが、おもちゃ学芸員に指導教官になってもらう。シニアと学生間で師弟関係を結ぶ。これも、多世代交流と位置付けている。

焼津市の検討課題として欲しいのが、ウッドスタート宣言である。木育サミットも、ウッドスタート宣言した自治体から参加していただいている。ウッドスタート宣言とは、生活の中に木を取り入れる活動であり、現在、50の自治体が宣言している。ウッドスタート宣言した50の自治体のは、誕生祝品として、地産地消の木のおもちゃを新生児にプレゼントする等の取り組みを行っている。最終目標は、棺桶も地域材で作成することである。このように、生涯にわたる木とのふれあいの精神を、ターントクルに取り入れて欲しい。



⑤他のおもちゃ美術館

山口県長門市では、急激な人口減少の対策として、道の駅をつくった。しかし、道の駅は全国に多数あり、効果が少なかったため、独自性を持つために、道の駅の4分の1を使い、おもちゃ美術館を建設した。道の駅と、おもちゃ美術館の相乗効果で、四国中国地方で最も人を集める道の駅となった。長門のおもちゃ美術館の特徴は、海に近い施設であったため、栈橋とミニクルーズ船も作ったことである。ミニクルーズ船は1周15分で周遊を行っているが、非常に好評である。このクルーズ船の資金は、クラウドファンディングで集めた。ここでも、150人のおもちゃ学芸が活躍している。

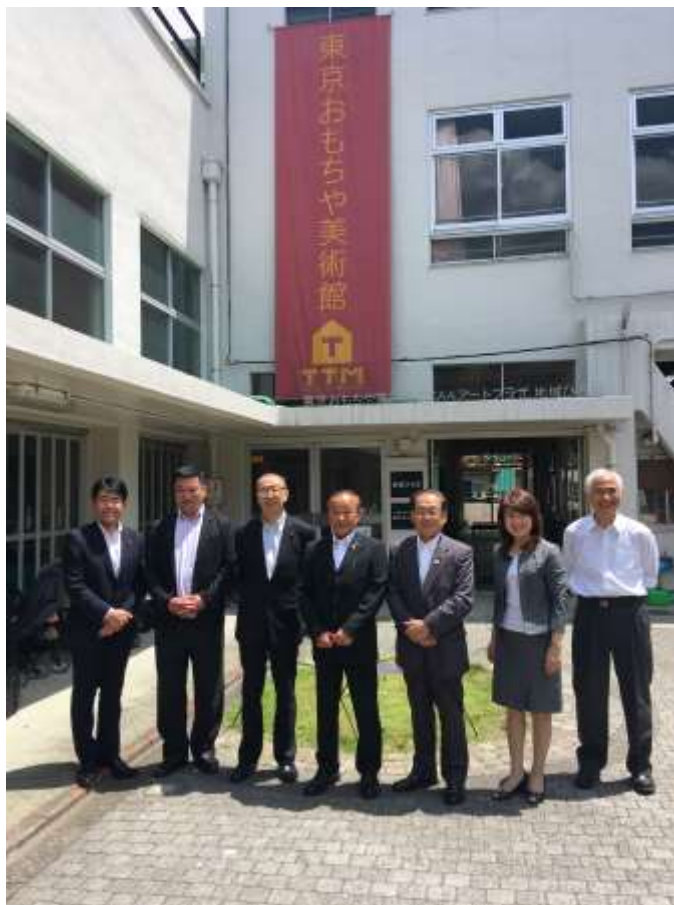
秋田県由利本荘市では、国登録有形文化財である小学校の廃校を利用し、おもちゃ美術館を作った。ここは、近くの赤字ローカル線におもちゃ列車を作り、乗客は4.8倍になった。

その他、沖縄やんばる美術館が完成している。今後、花巻、焼津、桧原村、木曾に建設される予定であり、以上8館で連携していきたい。

焼津のターントクルは、他施設の例を参考に試算すると、5万～10万人を見込んでいる。

⑥その他

東京おもちゃ美術館が協力した、「森のおもちゃ美術館」が当日、新宿御苑で開催されており、東京おもちゃ美術館職員の案内により、森のおもちゃ美術館の視察も行った。



⑦質疑応答

Q 木育の機運を高める手法は。

A 市民との対話集会を行う。焼津の場合グランドオープンまでは10回は開催したい。また、市外の方の意見もゲストスピーカーとして聴取したい。

Q 国産樹木が住宅に使用されない要因はなにか。

A 価格は、国外、国内と大きく変わらない、しかし、ハウスメーカーが海外の材木を仕入れる流れが完成してしまっている。このシステムを変更することが難しい。また、国内林業の荒廃により、大量に供給できない。

Q 由利本荘市でのおもちゃ列車の導入により、ローカル線は黒字化したのか、

A 乗客は4.8倍になったが、そもそもが少ないため、黒字にはなっていない。

⑧所感

焼津「ターントクルこども館」コンセプトは、「集い」「遊び」「学び」の機能を有する複合多岐な機能を配置するとしており、1. 快適な遊び場、2. こども自ら成長する場、3. 子育て力を高める場、4. ふれあい・集いの場、5. 子供を支援する場、としている。魅力的な空間づくりと市民が参加できる仕組みづくりを目指す事が出来る施設事例であった。全国7つの姉妹美術館がどこも美術館の建設を起爆剤にして、その地域の特性を生かして人の集まる新しい地域づくりを成し遂げていることに大きな驚きと期待を感じた。

⑨今後の参考となる事項

焼津は全国で8番目、子ども図書館との併設は日本初とのこと。地元を中心としながら地域を育てていく。県内林業、港の活用も視野に入れた「子ども館」が見えてくる。

今後、ターントクル子ども館の位置づけや役割について、他のおもちゃ美術館同様に、人と地域をつなぎ、中心市街地を活性化させる新たな取り組みとして、運営等について幅広く協議する必要があると考える。

焼津では絵本とおもちゃのコラボとなっており、全国初の試みで、魅力ある施設となって、賑わいのまちづくりのハブ施設になってほしいと思う。駅南地域には黒潮温泉、日本一の水揚げ高を誇る焼津港、駿河湾、新鮮な魚や水産加工品、点在するディスカバリーパーク、深層水ミュージアムなどをおもちゃバスでつなぐ方法なども賑わい創出となりそうである。

